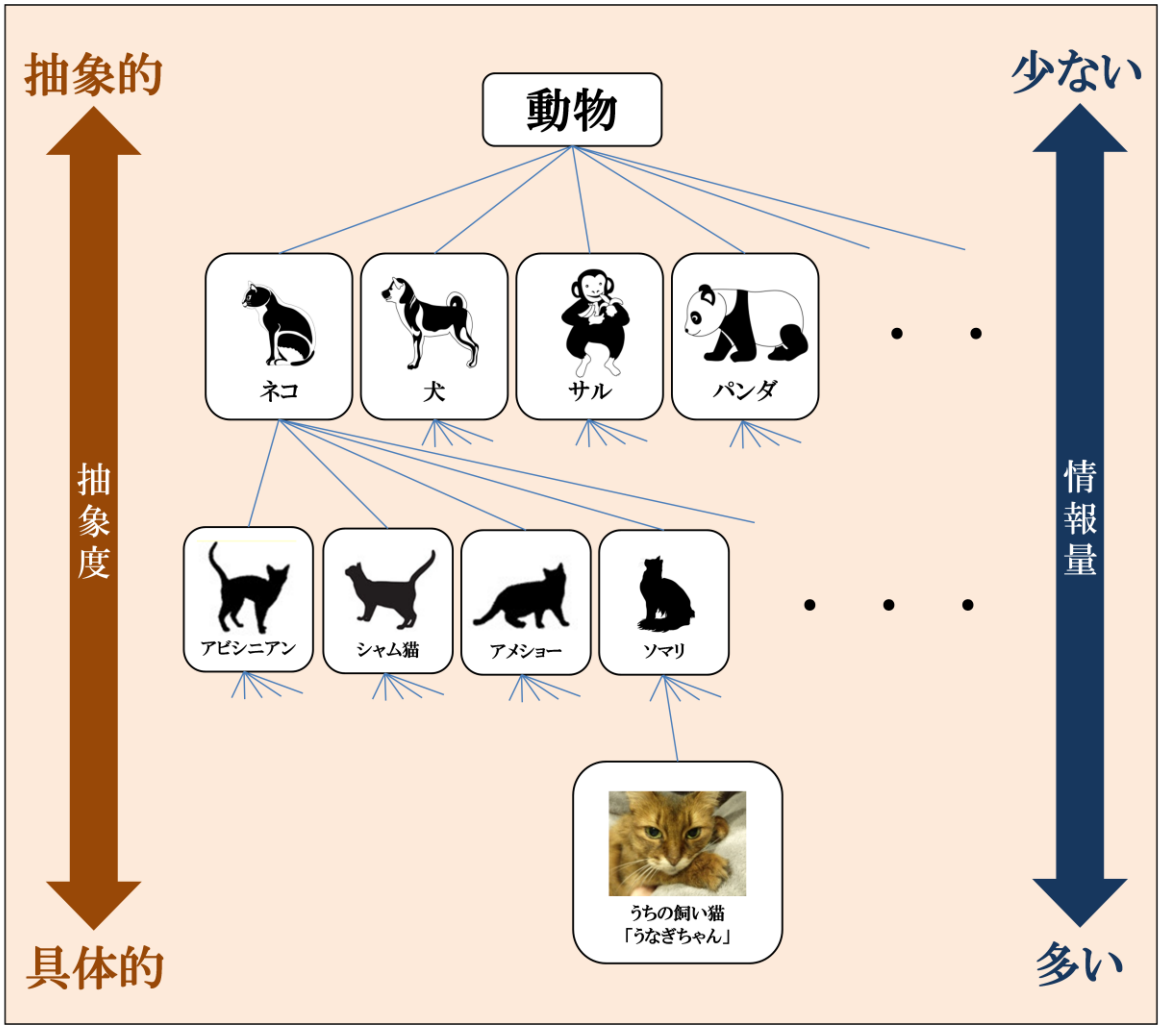
インプット・アウトプット理論

■インプット・・・人生を良くする学びを得ること（自己成長）
■アウトプット・・・その学んだことを周りの人に伝えること（他者貢献）

1.「抽象度」と「情報量」の関係

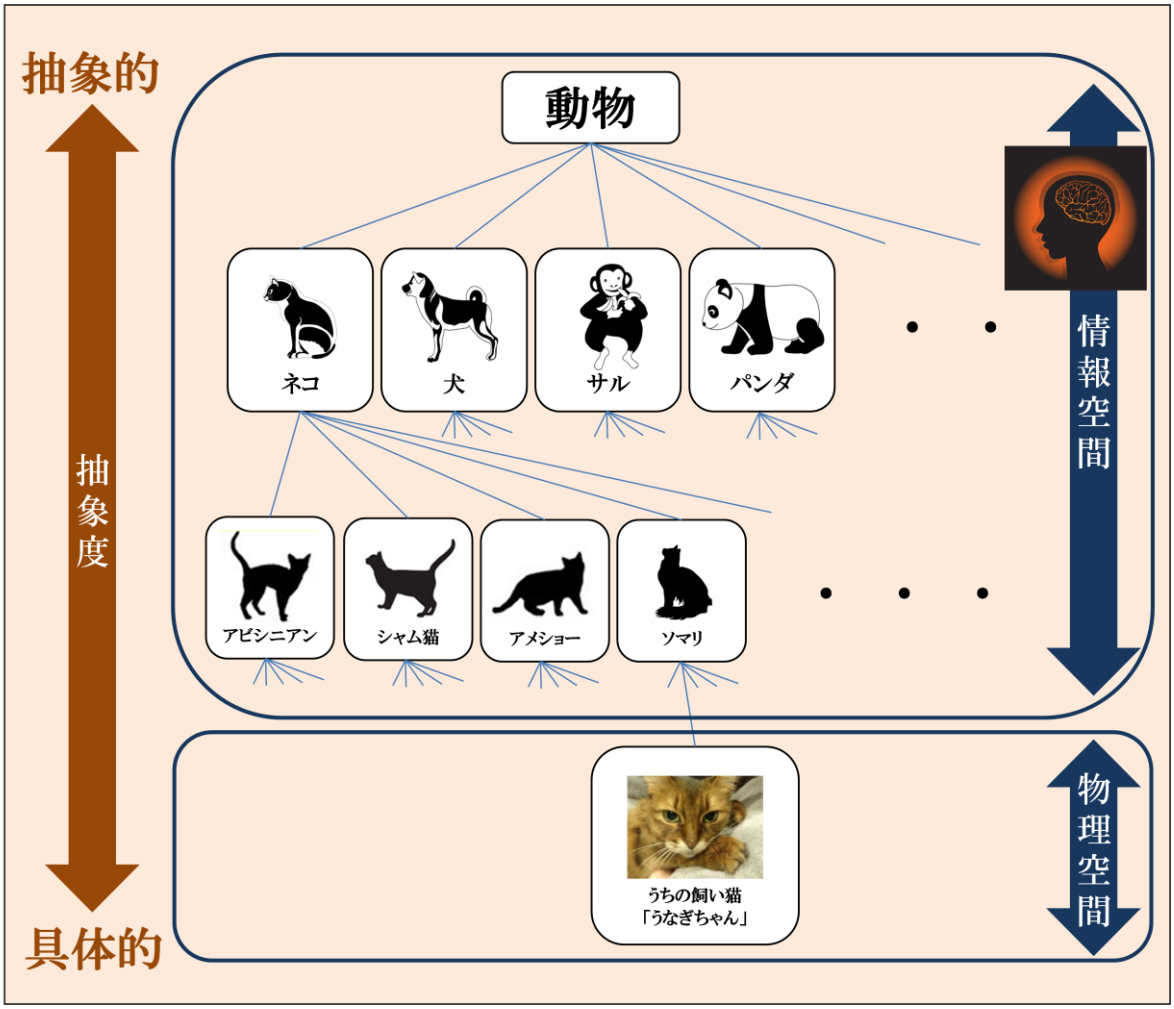


・「動物」という概念を例に「抽象度」と「情報量」の関係をみてみましょう。
　↑「動物」
　↑「動物」の中の「ネコ」
　↑「動物」の中の「ネコ」の中の「ソマリ」
　↑「動物」の中の「ネコ」の中の「ソマリ」の中の「うちの飼い猫うなぎちゃん」

・「抽象度」が高いほど、情報は削ぎ落とされて「情報量」は少なくなる。（コレ重要）
・「動物」という概念が理解できれば、この言葉１つで下層概念までの情報が保持できる。

Copyright(C) 2015 Yousuke Kawana. All Rights Reserved.

2.「物理空間」と「情報空間」



・「物理空間」とは、僕らが生きている現実世界のこと
・「情報空間」とは、物理的に存在するものではなく、僕らの脳の中で作る情報だけのぼんやりした世界

・「動物」という概念の例では、「動物」→「ネコ」→「ソマリ」までが「情報空間」、
「うちの飼い猫うなぎちゃん」が「物理空間」となる。

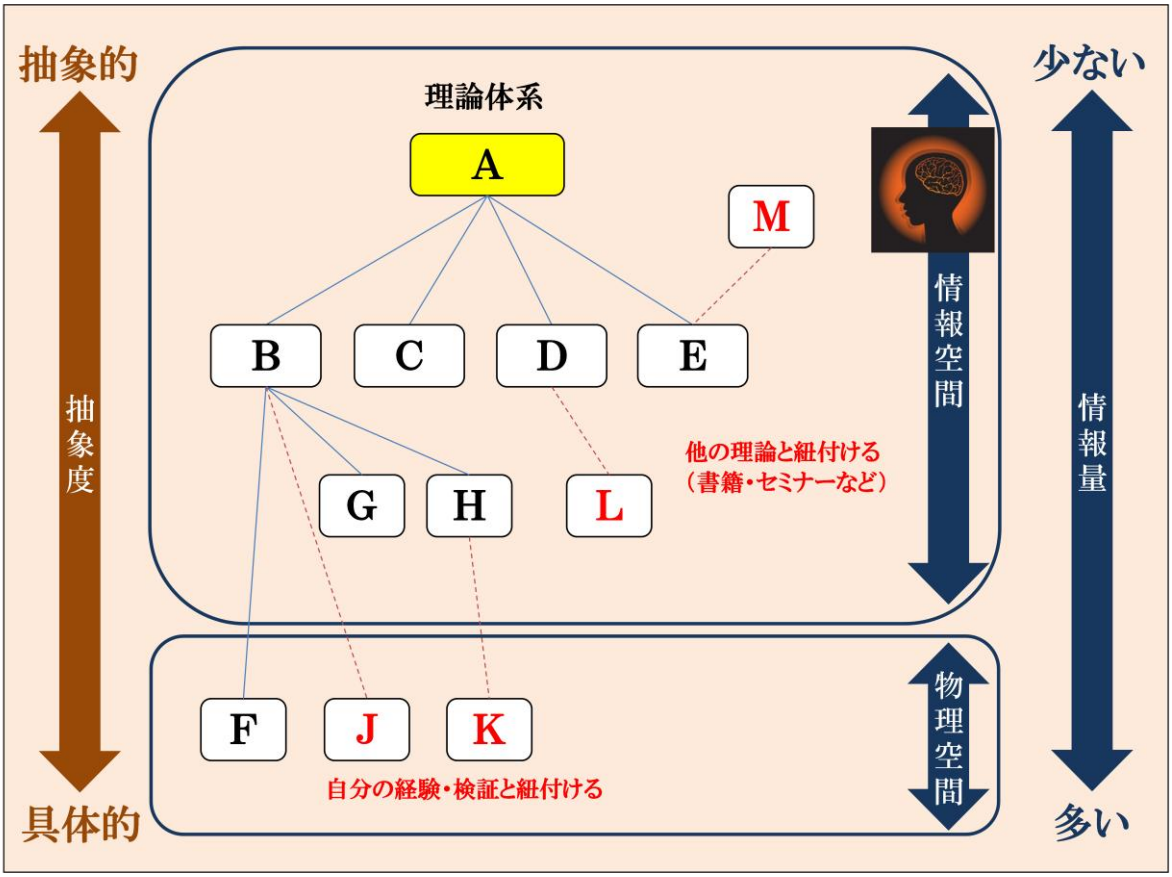
・概念というのは、物理的に存在するものではなく、僕らの脳の中（情報空間）にあるもの。
それを具体化していくことで「物理空間」とつながる。

・インプット時の理論体系も同じ構造を作る。

Copyright(C) 2015 Yousuke Kawana. All Rights Reserved.

3. インプット・アウトプット

■インプット（自己成長）



・インプット時に一番重要なのはＡ（筆者が伝えたい本質）を見抜くこと。
・Ａを見ぬいた上で構造を掴む。
（Ａ以外は、Ａを理解するために用意された事例などで構成される）

・さらにインプット時は、他の知識や理論、自分の過去の経験と繋げられないかを意識する。
（上図のＪ、Ｋ、Ｌ、Ｍ）
・「情報空間」だけで作られた理論は、情報を単に「知識」として持っているだけで、
しっかりと「物理空間」まで落とすことをやらないと使える状態にはならない。

・「正しいインプット」が出来る人と出来ない人の違いは「Ａを見抜いて構造が作れる」かどうか。

（構造が作れる人）・・・例えば、上図のＣが難しくて理解できなくてもスルー出来る。
（構造が作れない人）・・・理解できない部分が１つでもあると、全体が分からなくなる。

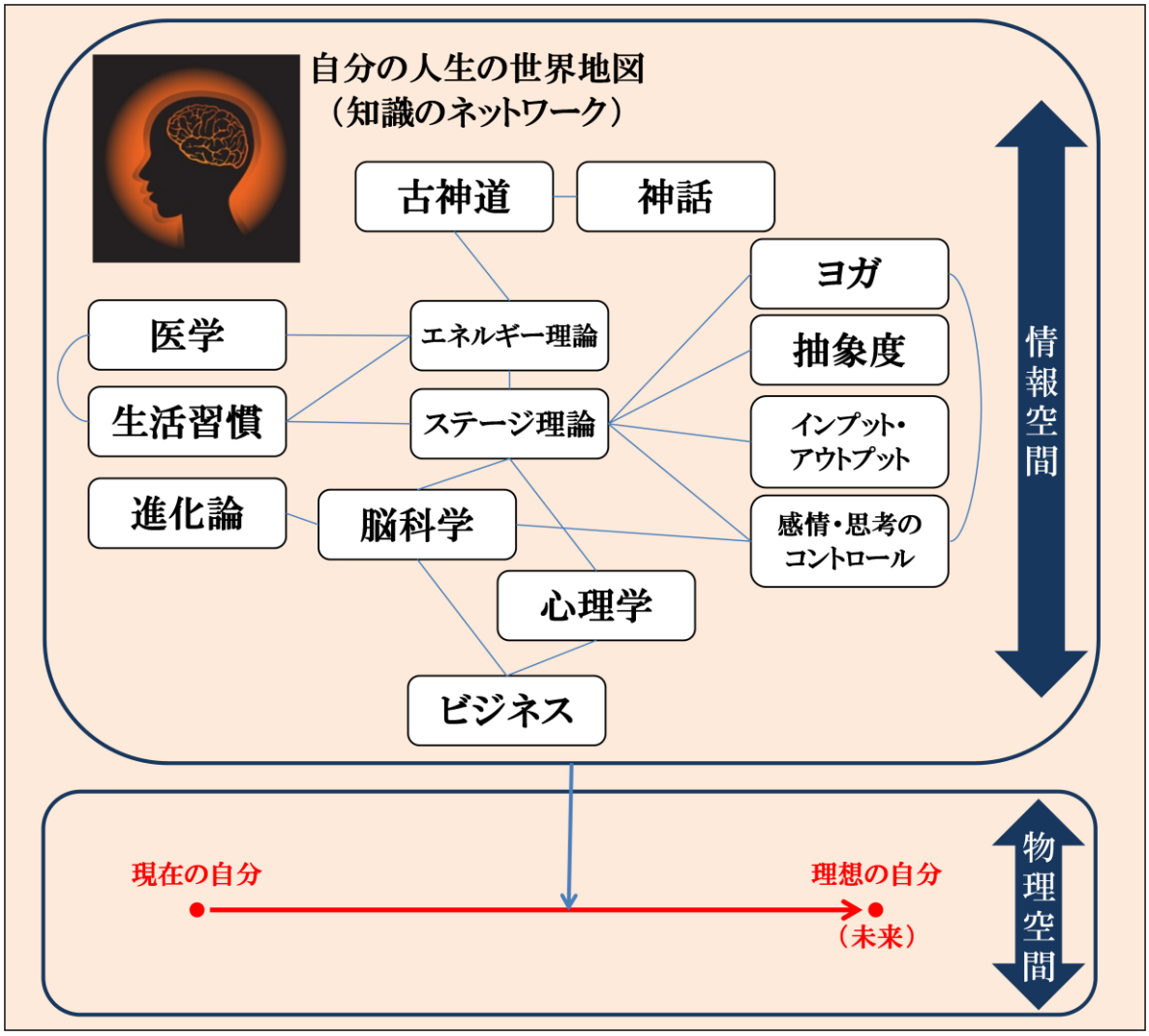
Copyright(C) 2015 Yousuke Kawana. All Rights Reserved.

■アウトプット（他者貢献）

・インプット時に作った構造を相手の中で再構築することがアウトプット。

・だから、アウトプットを前提としたインプットをすることが重要となる。
（インプットの質が悪いとアウトプットの質も落ちる）

4. 知識のネットワーク化



・ステージの高い人は、思考の抽象度が高いため、少ない情報量で膨大な知識を保持している。

・また、自分の人生を良くするための知識（自分の理論）が脳の中でネットワーク化されていて、その世界地図を常にバージョンアップしながらステージを上げ続けているイメージ。

・正しいインプットは、得た知識をこの自分の人生の世界地図に反映する作業。

・ステージの高い人は、その自分の理論（情報空間）から、自分の理想の未来に近づく道筋を導き出せる（物理空間に落とせる）。ビジネスを例にすると「億稼ぐ」道筋も見える。

Copyright(C) 2015 Yousuke Kawana. All Rights Reserved.